



「認知症とともにも自分らしく生きる」

理事長 山崎 八〇ネ

日本は世界一の長寿国です。厚生労働省は国内で、認知症の人と認知症になる可能性がある軽度認知障害 (Mild Cognitive Impairment : MCI) の人の予備軍を含め、八六二万人存在すると発表しています。若年性認知症の発生は十代からで、四人に一人が認知症とその予備軍という数値は、認知症という問題がとて身近で、まさしく自分事になりました。

そもそも、認知症とはどのような病気なのでしょうか。公益社団法人日本WHO協会は、「認知症は、記憶力、思考力、行動力、日常生活の能力が低下する症候群です」と説明しています。司令塔である脳の細胞が死滅したり、働きが悪くなることによつてさまざまな障害が起こり、生活のあらゆる場で支障が出てくる状態の総称です。そのために、時間や場所がわからない、道に迷う、道具が使いにくくなる、できたはずのことができなくなるなど生活上の不自由さは、日常生活全般で起こってきます。認知症グループホームの日常生活もまた同様で、ご利用者によつては日に何度も「どうしたらいいの?」と不安になり、ある人は「家に帰らなければ」と気になつてソワソワとした言動を繰り返されます。

自分の思い通りに動けなくなることは大変なことです。『老いの意味』の著者ポール・トゥルニエは、容赦のない定年制度や高齢者施設への移動という変化が人にもたらす影響・ショックについて、P・ミライエの言葉を引用してこう述べています。

「移動は老人が受けるもつとも重大な外傷のひとつなのです」と。

重大な外傷であることについて私たちはどれほどその痛みを理解しているでしょうか。傷が癒えるようにだんだんに新しい生活空間に慣れる時間が必要なのです。そのためには周囲のあたたかい見守りや味方としてのかわわりが大事になってきます。認知症は脳の病気というだけでなく、周囲の人との関係性も影響してさまざまな症状が生まれているということ忘れてはならないのです。

三十九歳で若年性認知症と診断された丹野智文さんは「本人からできることを奪わなければ、やりたいうことができるチャンスにつながる」と周囲の人の優しい理解を求めています。

からし種の家の入居者Aさんは、入居から半年後に大動脈瘤という大きな病気が見つかり、それも影響してかある日の夕食の後、九十歳の天寿を全うされました。Aさんのお顔はおだやかで、解放されたようなやさしい表情をされて、まるで眠っているようでした。

そのAさんがある日、無断外出をし、職員、ご家族、警察と必死に探されたことがあります。ご実家の話をよくされ、本人は何度か試みることはあつてもホームに戻るがとほつとされていることが多かったのですが、その日は違つていました。Aさんは見事、電車で乗って新潟駅に向かい、駅からはタクシーを使って「実家」にたどり着くことができたのでした。ご家族から電話があり、ほつとした職員たちの顔が印



- 2019年8月
- 社会福祉法人 からし種の会
事務局 〒950-2071
新潟市西区西有明町2番5号
TEL: 025-201-7688
FAX: 025-201-7626
E-mail: karashi9845-tane@cyber.ocn.ne.jp
- 高齢者グループホーム からし種の家
〒950-2014
新潟市西区小針西1丁目4番22号
TEL: 025-267-6600
FAX: 025-267-6602
- グループホーム マナの家
□地域福祉事業 マナの家・みんなの家
〒950-2071
新潟市西区西有明町2番5号
TEL: 025-201-7688
FAX: 025-201-7626

象的ですが、それ以上にAさんの力、「やりたいことができるチャンス」を手にした満足度、達成感を喜びました。

二〇一九年にまとめられた認知症施策推進大綱には「普及啓発・本人発信支援」を柱の一つとしています。また、翌年には「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」が施行するなど、本人が尊厳と希望をもって認知症とともに自分らしく生きるという権利が尊重され、だれもが社会の一員として希望を持って暮らせる地域を目指すという社会の目線が変わってきました。グループホームへの入居は必ずしも本人の望む居住空間ではないのかもしれない。しかし、既に利用されている方々と出会う中で、場合によっては自宅以上の我が家ともなりえる居住空間、落ち着く居場所にもなりえる場であることを確信しています。

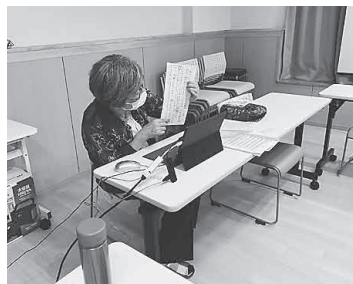
Aさんは一人で実家に帰りました。しかし、道中は一人でどんなに「怖かった」かもしれせん。もし、職員と一緒に同行して、実家を教えていただくことができたらどんなにその時間は楽しく喜びが倍増したことでしょう。それだけに後悔が残っています。そしてこうも思います。認知症の人とかかわつて生きる職員たちが後悔ではなく、認知症の方々の生きる力、生き抜く力を信じて、彼らのできることを「できるように」できるだけの支援を行う。例えばわかりやすいような形での情報提供や、本人がより緊張しない場所・人・時間帯を工夫しながら、最善の利益とはなにかを考える周囲の者たちが多くいればいるほど、認知症の人は生きやすいのではないのでしょうか。味方、生活のパートナーとしてやさしいかわわり、適切なケアの担い手として成長していきたいものです。その職員たちの聞きなれた声や見慣れた顔を認知症のある人は身内のように覚えていくことができます。それ以上に私たちの導き手であり道である主は、「わたしは、その羊をも導かなければならない。その羊もわたしの声を聞きわけける」(ヨハネによる福音書十章十六節)と約束し、認知症の方々と共に生きる道を導いてくださいます。

コロナ禍での新たな始まり

さんび礼拝で共に

児玉 幸

私は、西区の教会の牧師を引退後、二年程前に山崎先生から声をかけていただいて、こちらのさんび礼拝で二か月に一回のペースで聖書のお話をさせてもらっています。



初めは、からし種の家とマナの家の二か所で、それからコロナの感染が始まってからは、からし種、めぐみ、のぞみの三か所で礼拝をしていました。ちよūdōどよい人数で、入居者の皆さんのお顔を見回すことができました。毎回、お一人一人が口を動かして讚美歌を歌ってくださったり、拡大コピーした聖書のことばを一緒に読んでくださったり、首を振ってくださったり。お話を、ウンウンとうなずきながら聞いてくださいます。

ある時は、礼拝が終わると、「永遠のいのちですね」と、私が一番お伝えしたかった言葉を語ってくださった方もいらつしやり、私の心も熱くなりました。現在は、オンラインで、三か所のご様子を私も映像で見せていただきますながら礼拝をしています。場所は離れていても、皆さんで一緒に礼拝できる恵みを味わっています。



そして、感染が収束して、また直接、お一人一人のお顔を見せていただき、お声を聞かせていただく時を楽しみにしています。よく歌っている讚美歌

九十番に

「ここも神の 万国なれば
あめつち み歌をうたいかわし、
岩に樹々に 空に海に
たえなる御業ぞ あらわれたる」



とあります。歌いながら私は、ここまでご生涯をたどってこられた方々が、天国への希望を持ちつつ、今、「ここも神のみ国」として、平安な日々を送られますようにと祈らせていただいています。

オンライン礼拝

からし種の家職員 齋藤 信恵

毎週日曜日の午後から、週替わりで四人の牧師先生から聖書のお話をお聞きし心温まるひと時を過ごしています。コロナ禍の中、テレビの画面を通じての礼拝、利用者様にとっては今まで経験した事のない不思議な時間であると思いい心配ではありましたが、いつもとお変わりなく大きなお声で讚美歌を歌っておられるお姿にとても安心致しました。どのような状況に置かれようと、心から神様を賛美することは目には見えませんが、聞いておられ必ず助け出してくださいます。またその時を信じて待つことなのではないでしょうか。「光は闇の中に輝いている。」(キリストのことばヨハネ一(四)一職員として、利用者様と、そのご家族様の上に、また働く職員の上にも神様のお守りを祈らずにはいられません。



きまま舎・マナの家庭交流会

就労支援事業所きまま舎 所長 星

ゆり子

昨年九月からマナの家の清掃に入らせていただいています。障がいのあるメンバーが就労を目指すための訓練の場として、またコミュニケーションを学ぶ場として、週に一度お邪魔させて頂いています。お邪魔した際にはいつも温かく迎えていただき、大変感謝しております。



新型コロナウイルス感染拡大に伴い、冬の間お掃除は休止となり、寂しく思っていたところ、山崎理事長のご提案で三月にオンライン交流会を実施していただきました。

交流会ではマナの家の皆さんからご質問いただき、きまま舎メンバーが回答、緊張しながらも画面の向こう側の皆様に届くよう、一生懸命話をしていく姿が見られました。また、讚美歌をプレゼントしていただき、その歌声に心が温かくなりました。コロナ禍で、人と会うことに制限が設けられ、我慢を強いられる場面が多くあります。そんな中、新しい形で交流することが出来、あたたかな時間をいただくことが出来ました。ご縁に感謝です。

子ども達とのオンライン交流について

のぞみ職員 滝澤 絹代

西区社協様の紹介で、内野小学校の五年生と二月にオンラインで交流会を行うことができました。当日はテレビに映像を繋ぎ、タブレットで会話やこちらの様子を映しながら、子ども達が準備してくれたダンスや歌、クイズを一緒に楽しみました。子ども達からの質問やクイズに頭を悩ませながらも、

答えたり、歌やダンスに手拍子を送って応援、一緒に歌う場面もありました。皆さん子ども達の一生懸命な姿に目を細め、嬉しそうにしておられました。子ども達からは手作りのメッセージカードやフォトブックのプレゼントもあり、「上手にできてるね」と繰り返し読んでおられます。

後日子ども達からは感想文も届き、皆で読みました。ご利用者の方の反応や笑顔を見て嬉しかったということや、思っていたよりも皆さんが元気で驚いたといった感想もありました。画面越しではありましたが、子ども達の温かい気持ちに触れることができ、マナの家一同元気をもらいました。



ホームの面会再開について

のぞみ職員 樋口 美幸

新しい感染症により、ご利用者とご家族と面会できる時間は減り、様子を伝える方法としてパソコンやスマートフォンでの画面越しのやり取りが始まりましたが、ワクチン接種を実施し、周りの感染状況や緊急事態宣言の解除を受け、少しずつですがホームでの面会の機会を増やしております。

七月からは三十分程度ですが、ご家族と一緒に過ごしていただけるよう場所をご用意しております。感染予防にうがいや手洗い、換気やマスクをして面会となりますが、予防が当たり前の日常になっておりますので、ご利用者の皆様も習慣になりました。

ただ、以前のように近い距離での会話は控えていただかなければならず、またマスクをしながらの会話となるため、表情がわかりにくく感じることもあるかもしれません。認知症の症状から面会した記憶がなくなり、時間が経つと思い出せなくなる方もい

らっしゃいます。ですが、面会時に見えるやわらかい視線や聞こえてくる明るい声の変化は明らかにホームで感じるものとは異なります。時間を気にせず、会いたいときに会える日常が待ち遠しいですが、その日を迎えるためにも感染予防を心掛け、取り組んでいきたいと思っております。 ※新潟市でもコロナウイルス感染者数が増加しているため、八月一日より面会中止とさせていただきます。

オンライン講演会を終えて

マナの家管理者 堀川 聖子

からし種の会ではオンライン講演会を二回開催いたしました。

一回目は北九州市でホームレスや生活困窮者支援を行っているNPO法人「抱樸の会」の奥田知志理事長の講演会でした。「ひとりぼっちにしないという支援」というテーマで「抱樸の会」の目指す「家族機能の社会化」について、日々の実践や出会った方々とのエピソードを交えてお話し頂きました。からし種の会も大切にしている「共に生きる」ことの豊かさを再確認できるお話でした。



いこいのプロジェクターに映して地域の方も一緒に奥田先生の講演を聞きました。

得て自分らしく生きる道を見出した過程を語って下さいました。マナの家の清掃をお願いしている「きまま舎」のお仲間やご利用者も一緒にお話を伺い、画面を通じて丹野さんとのやりとりを楽しまれました。「認知症になって良かったことは、沢山の人の出会えたこと」と明るく話される丹野さんの言葉が印象的でした。 今後も学びとステキな出会いにつながるこうした講演を企画していければと思っております。

新型コロナワクチン接種終了

統括施設長 土田 成子

昨年度は、新型コロナ感染防止に明け暮れ緊張し続けた日々でした。交流制限や面会制限などにより入居者様にとっても淋しい毎日だったかと思っております。

そこで、ちよっぴり明るいニュースです。当法人の入居者様と職員の希望者全員に二回のワクチン接種が七月四日に終了しました。三Gに分け、六月二十七日から毎週日曜日クラクリニツクの八木沢先生から接種いただきました。

副作用の状況ですが、入居者様では二名の方に発熱があり心配しましたが、他はお変わりなく過ごされました。一方、職員は発熱、頭痛、倦怠感などの全身症状が一回目より二回目でも多く見られ、五十歳以下では、程度の差こそあれほぼ全員にみられ、年齢が若いほど症状が重く現れました。中には、勤務中に高熱や倦怠感で勤務できなくなり症状の軽い人に交代したり、解熱鎮痛剤を内服しながら勤務するなど協力しながら乗り越えるという経験もございました。

予防接種が終了してもコロナウイルス感染症が終息した訳ではありません。今後も感染防止に努めていきたいと思っております。



一般社団法人 からし種の会後援会 感謝とお願い

理事長 小淵 康 而

コロナウイルスがまだまだ終息しない中であって、皆さまお変わりありませんか。

このコロナ禍の中にあっても、からし種の家もマナの家も、職員の皆様の日夜にわたる献身のお陰で、一人の感染者もなく過ごせてきました事を、心から感謝いたします。

また、その間多くの皆様に支えられて、この「後援会」も微力ながら「社会福祉法人 からし種の会」の働きに協力できましたことを感謝いたします。

さて、この「後援会」も発足して三年目を迎えておりますが、この法人の目的は、「社会福祉法人 からし種の会」の財政を横からお助けすることです。御存知のとおり、「からし種の家」が始められるとき、何の財政的基盤もなしに、山崎ハコネ先生の個人的な召命感によって出発いたしました。そのため多くの人たちの尊い寄附金と貸し付け金によって支えられてきました。個人的に貸し付け金に参加して下さった方々にあと三年間で六百万円お返ししなければなりません。何とぞ、引き続き、御協力頂きますよう、お願い申し上げます。

差し当り、この八月に二百万円の返済を予定いたしております。

猛暑とコロナの中、皆さまのご健康が守られますように、お祈りいたします。



オンライン講演会ご案内

テーマ 『看取りの実践
～ひとりの人間としての
尊厳を守るケア～』

講師：小澤 竹俊氏
一般社団法人エンドオブライフ・ケア
協会代表理事
めぐみ在宅クリニック院長

日時：2021年10月13日（水）
18：00～19：30



どなたでも無料で参加できます。
※問合せ、申し込みはからし種の会事務局まで
専用メールアドレス
online2020karashi@gmail.com

福祉なんでも相談 10月からスタート

子育て・親の介護・認知症・障害などでお困りのことなど、なんでもお話してください。

秘密は厳守いたします。また、必要に応じて支援や専門機関につながるようお手伝いしていきます。

専用電話：025-201-8311

毎週月曜日：10：00～13：00

相談員：保育士・介護福祉士・社会福祉士・
介護支援専門員・牧師・元教諭師
これらの経験と資格を持った相談員
が待機しています。

お譲りします

リクライニング車椅子を1台
マナの家（西区西有明町）まで
取りに来てくださる方へお譲り
します。ご希望の方はマナの家
へお電話下さい。

TEL 025-201-7688



後援会個人献金等 一般社団法人からし種の会後援会

2020年10月11日～
2021年6月30日分

■賛助会費、維持会費、自由献金

氏名	金額	氏名	金額	氏名	金額
中俣 正美	50,000	笹川 トシ	10,000	河上 正義	5,000
山岡 清二	5,000	大岩 治子	5,000	福島 三郎	5,000
横山 豊治	3,000	山北宣久・千世	80,000	安藤 謙三	3,000
山田 耕太	15,000	北尾 隆昭	5,000	会田 きよみ	5,000
久保 和子	5,000	並木 浩一	15,000	青山学院初等部	30,000
福田 富貴子	50,000	明地 美智子	5,000	イエス・キリスト栄光教会	5,000
林 浄子	5,000	松崎 博司	100,000	日本基督教団 新津教会	3,000
饒村悠子税理士事務所	3,000	古川 久子	3,000	日本キリスト教団 東中通教会	3,000
牛木 秀子	10,000	佐藤 浩雄	3,000	日本基督教団 新発田教会	10,000
守下 義之	20,000	富岡 元子	3,000	敬和学園大学キリスト教と教育委員会	3,000
貝塚 夕紀代	5,000	鈴木 恵子	5,000	日本基督教団新丸子教会婦人会	3,000
高橋 和彦・華枝	3,000	藤森 恵美子	5,000	日本キリスト教団 佐渡教会	3,000
薩摩 雅宏・牧子	5,000	佐藤、石井、高橋	10,000	日本キリスト教団 東新潟教会	3,000
星野 りえ子	20,000	加藤 楽子	5,000	日本基督教団新丸子教会	5,000
小柳 直江	10,000	(株)ネイグル新潟	10,000	日本キリスト教団 五泉教会	4,200
児玉 幸	5,000	松本 幸恵	10,000	匿名	10,000
加野 久子	3,000	八木澤 久美子	10,000	匿名	5,000
新潟地球村教会	10,000	山崎 ハコネ	200,000	匿名	10,000
(株)コムプラスビズ	10,000	櫻井 勝郎	3,000	匿名	100,000
遠藤 真一	10,000	長谷川 静子	5,000	匿名	10,000
加藤 栄嗣	5,000	小林 恵	10,000		
加藤 晃茂	3,000	重島 高美	2,000	後援会寄附金合計	984,200

献金・ご寄附のお願い

看取りの家、たまり場、みんなの食堂は自主事業で行っておりますので、運営は皆様からの献金・ご寄附に支えられています。

ご支援をよろしくお願いいたします。

後援会の口座 郵便振替口座 払込取扱票で入金の場合

口座番号：00540-6-53627

加入者名：一般社団法人 からし種の会後援会



■法人寄附

氏名	金額	氏名	金額
関本 道章	20,000	匿名	60,000
森 数美・たづ子	40,000	小池 由佳	5,000
松井 朝子	50,000	日本キリスト教団 東新潟教会	3,000
匿名	120,000	周佐 百合子	5,000
山田昌人・光子	100,000	一般社団法人 からし種の会後援会	3,000
幸田 良子	100,000	合計	606,000
小淵 康而	100,000		

○所得税控除の為に法人へご寄附をされる方は下記の口座へお振込みをお願いします。

法人の口座

・第四北越銀行 小針が丘支店 普通預金
口座番号：1311450

口座名義：社会福祉法人からし種の会

・ゆうちょ銀行

口座番号：00520-2-49444

口座名義：社会福祉法人からし種の会

※ご不明な点はお問合せ下さい。

TEL 025-201-7688

みんなの食堂

のぞみ職員 西村 富美子

コロナ禍の中「みんなの食堂」は毎月一回弁当配布(要予約)のかたちで続けることができています。徐々に注文数が増え、一回の提供数は八十食を超えるほどになっています。

マナの家では、例年クリスマス会を地域の方々と一緒に開催しているのですが、昨年はコロナウイルス感染防止の為、会食での開催が出来なくなりました。そこで地域の方たちと話し合い、「みんなの食堂」のお弁当を一人暮らしの方二十名に届けようということになりました。当日は、実習生が地域の方と一緒に弁当を配ってくれました。実習生がお弁当を手渡すと「若い人から渡してもらった」と言って感激し涙を流される方もあったとのこと。一方、実習生も地域の方とマナの家のつながりを強く感じたと話してくれました。しばらく会えていなかった方々の元気でおられる話をきくとスタッフ一同、うれしくなりました。

食堂には、いっぺこーと様(旬の野菜)、JJA共済連様(肉や野菜)から食材を提供していただき、そのおかげで豊かな献立のお弁当を提供できています。

四月から、新しいボランティアの方たちが手伝ってくださっています。人数が増え、お弁当作りの作業がスムーズに進むようになりました。たくさんの方たちのご協力のおかげで「みんなの食堂」が続けられていることに感謝いたします。



みんなの食堂は毎月第4月曜日の夕食(お弁当式)開催予定です。詳細はからし種の会ホームページをご覧ください。

救急講座を受けて

のぞみ職員 板垣 良貴

看護師の岸本さんより講習をさせていただきました。今回は介護の現場では必ず起きる緊急時の対応についてというものでした。以前にも体調の優れない方がいらつしやいました。救急車を要請、一命をとりとめたということもありました。こういったことが起きたとき、自身がすぐに行動できるように改めて参加しようと考えました。

今回は窒息の対応、心肺蘇生法、喀痰吸引という講習内容でした。窒息については除去できないと意識を失い、亡くなることにもつながるので迅速な処置が大事と話してくださいました。異物除去の手法も人形を使って丁寧に教えて下さいました。男性でもかなり力が入るような印象でしたが、このぐらいの力でないといけません。次に心肺蘇生法については、人手を増やし交代できる人をつくる、AEDの確保、心臓マッサージを途切れさせないことが大事と説明してくださいました。こちらも人形を使用して講習を行いました。規定の回数でもかなり疲れが出てくるためひとりでは行い続けることは難しいと再確認できました。喀痰吸引については自分も触ったこともなかったもので使い方が学ぶことが出来たこと。こちらの講習では利用者様の命を守るためとても良い学びに繋がりました。機会がないことがなによりですが今回のことを思い出して対応出来たらと考えることが出来ました。

2021年6月23日、7月2日
2回コースで行われた救急講座



吸引器の使用についての講習の様子

職員研修

たまり場・みんなの食堂空間整備事業

地域の誰が来てもよい居場所の用意と、食の支援のための事業により、この度いこいの整備が行われました。ガスオーブン、作業台、冷蔵ショーケースなどの設備が整いました。



新潟県新型コロナウイルス感染症 緊急包括支援補助金実績報告

初めに、ご家族の皆様には面会の自粛にご協力頂き、重ねて感謝申し上げます。ご利用者様の安全が守られるように、職員も外からウイルスを持ち込まない対策に努めております。その一環として、めぐみの職員出入口に補助金を活用して手洗い場を設置いたしました。今後もご利用者様が安心して過ごせるように努めて参ります。その他、感染防止のためのICT機器設置工事、衛生用品の購入等に活用させていただきました。



編集後記

「からしだね 第33号」は、いかがでしょうか。本年も、昨年同様に新型コロナウイルス感染拡大の危機が続いており、職員一同徹底した感染予防に努めております。本号では、コロナ禍においてオンラインを用いた礼拝でのご利用者の活動等について記載させていただきました。今後とも皆様からのご指導・ご支援の程、よろしくお願ひ致します。(介護職員・廣川)